

たいせつなたからも

鹿児島県 徳之島町立母間小学校二年 池田 誇子

「なんだろう、このおおきなほこは。」

あるひ、わたしのいえにおおきなおおきなほこがとききました。ふしぎにおもつて、わたしはおとうさんにたずねました。

「おとうさん、あれなにね。」

すると、おとうさんは、

「あんたたちとのやくそくよ。」といいました。「やくそくて。」すこしかんがえてから、わたしはびんときました。そして、おおきなこえでさげびました。

「あつ、ぶらんこ。」

わたしともうとは、まえからぶらんこがほしくて、ずっとおとうさんにおねがいでいました。でも、そんなのむりだらうなとあきらめていたのです。おとうさんは、わたしたちのやくそくをちゃんとおぼえてくれました。

「やったあ、やったあ。」

わたしともうとはうれしくて、てらすでなんどもでんぐりがえしをしました。

さつそく、ぶらんこづくりがはじまりました。おとうさんは、あたまにねじりはちまきをして、だいくさんのようです。まず、

おとうさんは、おおきなまるたをかるがるとかたにかついで、はこびました。つぎに、まるたのながさやばしよを、一ぼん一ぼんかくにんしながらくみあわせました。そして、かさなつたところを、

でこぼのあるおおきなねじりで、しっかりととめていきました。

「ぐいん、ぎゆるぎゆるる。」

おとうさんは、きかいをじょうずにつかつて、どんどんくみたてていきます。おとうさんが、はんどるをきゅつとにぎると、ねじが

くるくるまわりながらあなのなかにはいつていきます。おとうさんのねじりはちまきから、みずのようにあせがぼたぼたおちてきます。すこしずつ、ぶらんこのかたちになつてきました。

わたしは、なんだかどきどきしてきました。かんせいまで、あとすこしだからです。おとうさんは、ときどきゆがんでない

か、しんけんなおで、いろんなところからみえています。いよいよ、あなにひもをとおしてぐいぐいとひっぽつて、こわれないよ

うにしっかりとこていしました。さいごは、いちばんからだのおおきなおとうさんがのつてみて、ちえつくしました。すると、

「ぎい、ぎい、ぎい。」

ちよつとぐらぐらしています。そこで、おおきなくぎをうつて、

せつたいにたおれないように、つよくこていしました。ためしに、おねえちゃんのがつてみました。

「これは、たいふうがきてもだいじょうぶ。」

おねえちゃんのことばで、まちにまつたぶらんこがかんせいしました。

「やった、やったあ。」

わたしは、うれしくてなんどもなんどもとびはねました。できあがつたぶらんこは、こうえんにあるような、りつぽなぶらんこでした。わたしは、そらにとどくぐらい、たかくたかくぎました。おとうさん、ありがとう。